

(様式 5-1)

地域重点施策推進事業事後評価調書(令和3年度実施分)

地域振興局名

平鹿地域振興局

(振興局調整費)

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
管内経営者と平鹿地域振興局との意見交換会	総務企画部	石川 亨	地域企画課	地域振興班	0182-32-0594	企業におけるデジタル化の推進においては、デジタル人材の育成や確保が求められるが、これらの取組には経営者による経営判断が大きく寄与するものと思われる。経営者に対して、DXに取り組むメリットや取りかきとしてハードルの低いやり方を交えたDXの活用について情報提供し、デジタル化の推進に対する理解を深めるとともに機運の醸成を図る必要がある。	49,500	管内経営者と平鹿地域振興局との意見交換会の開催(2月、1回、参加企業4社、主催者9人)	県	管内企業経営者	令和3年2月3日 令和4年5月16日	(参加企業) ・企業からは、「他社でのデジタル化の取組や課題等について聞くことができ、大変参考になった」という意見があった。	・生産性の向上や少子高齢化社会におけるサービス水準の維持・向上を図るためには、デジタル技術の活用が必要不可欠であり、デジタル化の推進における取組・課題等を情報交換し、地域一丸となって取り組む必要がある。 ・今後はより充実したものとするため、振興局以外の機関(市、ハローワーク、商工会議所等)の参加を検討する必要がある。
若手技術者C(civil)ターン事業	建設部	古山 司	企画・建設課	企画監理班	0182-32-6205	建設労働者の高齢化と若年層の減少による担い手不足が懸念されており、建設業の持続的発展のためには、将来を見据えた人材の確保及び育成が不可欠となっている。人口減少の要因である若者の県外転出に歯止めをかける観点からも、建設産業の振興を通じて若者等の秋田への定着を図る必要がある。出前講座や現場見学会を通して建設業が担っている社会的意義や魅力を伝える。	6,200	現場見学会の実施 ・9月8日、増田中学校、参加生徒44人)	県	中学生	令和3年8月24日 令和4年5月16日	(参加した学校) ・学校からは、職業教育の場として高い評価を受けており、令和4年度の実施についても要望されている。また、普段できない貴重な経験であったとの意見を聞き、参加生徒へ強い印象付けができた。	・新型コロナウイルスの影響により、移動手段や時間等の制約があったが、体験型のプログラムを導入することで、より興味を持つことができた。
県産オリジナルすいか品種「あきた夏丸シリーズ」の生産拡大事業	農林部	進藤 隆	農業振興普及課	担い手・経営班	0182-32-1805	管内の大玉スイカは、カット販売向けの規格(2L以上)がメインであり、玉売り需要に対応した規格の生産が少ない。そこで農業試験場が育成した「秋試交28号」の、玉売り需要の対応可能性について、現地での普及性を検討する。	172,555	(1)秋試交28号の生育確認試験及び内部品質、食味等の試験及び調査(5~8月、6回) (2)試験成績書の配布(1月、1回、25人)	県	JA秋田ふるさと、JA秋田ふるさと西瓜部会員	令和3年5月11日 令和4年5月16日	・秋試交28号の品種特性について理解が得られた。 ・スイカ作付農家の収益性が高くなることが判明し、概ね満足できる傾向が確認された。	・新品種の特性を把握することで、新たなスイカ販売のマーケットを確保できる可能性が示唆された。次年度への課題として、皮が従来品種より薄い傾向が把握できたため、輸送中に裂果しないか確認する必要がある。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
横手産品販売促進事業	総務企画部	石川 亨	地域企画課	地域振興班	0182-32-0594	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、県内外での物産イベントが中止等になる中、特産品に係わる事業者の販路開拓等の機会が少なくなっている。このため、インターネット販売を活用した横手産品の販売促進とともにGI登録のいぶりがっこの認知度向上を図る。	236,500	(1)横手特産品フェアの開催 2月1日～3月25日 (株)秋田県物産振興会楽天市場店に特設サイトを設置 売上総額:1,021,166円 (売上商品点数697点) (2)インセンティブの実施 GI登録いぶりがっこ 150本 (横手特産品フェアで3,500円以上購入でプレゼント)	県	「横手特産品フェア」における横手産品購入者	令和3年12月20日	・インセンティブを付したことや、フェア実施期間中にメルマガを4回送信したことにより、リピート購入したケースが12件あった。	・コロナ禍においてインセンティブを付したインターネット販売による特産品のPRは有効である。 一方、イベントや商談会における対面での直接的なPRはインセンティブの有無にかかわらず、購入喚起に必要な手法であることから、今後は状況によって柔軟な手法で取り組む必要がある。 ・GIいぶりがっこについては、認知度の向上を図るためインセンティブとしてPRの機会を確保したものであるが、引き続き様々な機会を捉えて周知していく必要がある。
											令和4年5月16日	・購入商品への高評価レビューやインセンティブに対するお礼のメッセージが届いた。	
横手市出身県議会議員と平鹿地域振興局との行政懇談会	総務企画部	石川 亨	地域企画課	地域振興班	0182-32-0594	当振興局の重点施策推進事業を実施するにあたり、管内選出の県議会議員に事業方針を理解を得、支援を受けることで、迅速かつ的確な事業遂行につなげることができるため、行政懇親会を開催する。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえると、振興局庁舎内の会議室は参加人数に対して十分なスペースを確保することが困難なことから、近隣の広い会場を確保し開催する。	47,960	行政懇談会の開催 6月10日 横手セントラルホテル 参加者:県議会議員4人 県関係者局長、各部長 ほか各部職員	県	横手市出身県議会議員	令和3年5月20日	・令和3年度平鹿地域振興局重点施策推進方針及び事業内容を説明し理解を得た。また、短時間での開催かつ広い会場を確保したことから、新型コロナウイルスの感染リスクの低減を図ることができた。	・重点施策推進事業等地域における重要施策については地元選出議員の理解が不可欠であり、説明の機会を確保することは重要であるため、日程や会場に配慮しながら開催していく必要がある。
											令和4年5月16日	・地元住民や事業者からの協力のもと、スムーズに事業を進めることができた。	